

## 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4077500132		
法人名	有限会社ひがし		
事業所名	グループホーム三春		
所在地	福岡県うきは市浮羽町三春1982-1 (電話) 0943-77-1300		
自己評価作成日	平成23年10月7日	評価結果確定日	平成23年12月26日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

三春の理念に基づき、季節の行事（夏祭り、敬老会、母の日の他）には地域のボランティアや家族に声かけし、多数の参加ができるように信頼関係を築くよう努めている。声かけで意思の確認を行いながら、プライバシーを守り毎日の生活援助を行っている。入居者の出来るところ（家事等）の力を借りながら、天気の良い日は外気浴や散歩、カラオケ等を楽しみながら過ごしている。入居者一人ひとり持っている能力に応じて生きがいを持って日々楽しく過ごしていただけるよう努めている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.fsw.or.jp/kohyo/top.html">http://www.fsw.or.jp/kohyo/top.html</a>
-------------	---

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	平成23年10月25日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

耳納連山を背景に、果樹・田園など豊かな自然に囲まれた事業所はやや高地にあり、眺望に恵まれた環境に立地している。庭には可憐な草花や木々、利用者と一緒に干されたと思われる洗濯物が陽に映え、日々の生活の穏やかさが伺える。朝の日課のレクリエーションで元気な利用者の声が聞こえ、心身機能維持への取り組みがある。天気に配慮しながら、ウッドデッキでの日光浴、弁当を作り遠足気分での会食など、全職員は利用者一人ひとりをより深く理解し、その人らしい寄り添ったケアをし、理念の実践に取り組んでいる。医療面でも連携を密にし、利用者や家族から生活面・医療面で信頼を得ている事業所である。

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に密着し、利用者が家庭的な環境の中で楽しく安心して生活できるように支援していくことを理念に掲げ、申し送りの時に唱和している。	地域密着型の視点を盛り込んだ事業所独自の理念を、全職員でつくり上げ、意識向上を図り毎朝のミーティング時に唱和し、理念を共有して実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	イベント開催日など案内文を出したり、いつでも遊びにきていただけるように声かけをしている。近所の畑で作業後に苑に持ってきてくださる方もある。	毎月の事業所便りやイベントの案内状を地域に配布して声かけをしている。地域の祭りや文化祭に参加し、事業所主催の秋祭りには参加を呼びかけている。小学生の来訪、中学生の研修、地域の踊りのボランティア等があり、また、日々の食事作りに近隣の7、8名のボランティアが関わっている。また、野菜の差し入れを頂くなど日常的に交流に努めている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学校の職場体験等を受け入れている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度運営推進会議を行い、苑内の現状を報告し、又、委員の方々より意見を頂き、ケアの向上に努めている。	定期的開催し、利用者の状況やサービスの実際を報告している。外部評価についても報告し意見を貰っている。人命に関わる災害・防火の面で避難誘導・洗濯乾燥機点検等について意見が出され、サービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に福祉課の方へ出席していただき、意見の交換や情報の共有をしている。	施設長は日頃から再三事業所便りなどを持参して市へ出向き、報告・連絡・相談等を行い、積極的に協力関係を築くように取り組んでいる。市の介護の日のつどいには職員が参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	鍵はかけずに、入り口が開くとチャイムが鳴るようにして、入居者の行動を邪魔せず、なおかつ、スタッフが気づくようにしている。	玄関及び居室に鍵はしていない。職員は利用者の外出傾向を把握し、玄関のセンサーに頼らず職員間で見守り、声かけをしている。地域住民にも理解を求め、見守り連絡をお願いしている。拘束のマニュアルや内外の研修記録・、テキスト・パンフレット・報告書など確認できない。	身体拘束の無いケアの実践は実施されているが、この機会に、全職員が外内部研修を受講し、研修記録を職員がいつでも確認できるように保管してほしい。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定例会等でスタッフがお互い気をつけるように心がけているが、虐待防止についての研修会や勉強会をするには至っていない。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	昨年、後見人制度について学ぶ機会があった。必要な方は活用できるようにしている。	全職員でテキストなどを用い、権利擁護について学ぶ機会を設け学んでいる。テキスト等を用い、利用者や家族などへ説明が出来るよう理解している。	制度については、必要時だけでなく契約時に情報として利用者や家族に説明してほしい。
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、書類と共に口頭でも説明し、同意を得ている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来苑時やケアプラン説明時に希望・意見などはないか、尋ねるように心がけている。	利用者・家族が運営推進会に参加し、意見を出せる機会はある。日常的に利用者が何でも言えるようにし、室温への希望と、高塚地蔵尊参りが要望されて実施した。家族とも常に話し合い、イベントなどをできるだけ日曜日にして欲しいとの意見があり、運営に反映している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会を毎月開催し、そこで意見を聴いている。朝の申し送り時に意見、要望等を聴いているが、記録としては残っていない。	毎月の定例会で職員はアイデア・意見を述べる機会がある。季節毎の共有空間の飾りつけや誤薬防止への再工夫、勤務時間の要望等が出され、検討し反映させている。	
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務実績、労働時間努力などを考慮し、ボーナスや処遇改善交付金の金額に反映している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとしして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	人権の尊重には十分に配慮しており、なるべく多くの人を採用している。	職員採用に当たっては、性別・年齢などで排除していない。配置・教育訓練などにも差別は無く、安心して働ける環境作りに取り組んでいる。職員それぞれの自己実現に努め、生き生きと働いている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	一部のスタッフは研修を受けており、パンフレット、テキストはある。	一部職員が研修し、参加できなかった職員に伝達研修を行っている。資料・研修記録は職員がいつでも確認できるよう事業所で保管している。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得や研修など出席できるよう、必要があれば、シフト調整をするなどして対応している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会に参加している。そこを通じて行われる情報交換会や施設の見学会に参加している。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者さんに何をしてもらいたいかを聞いて、スタッフ同士で話し合いをしている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と話す機会を多く持ちたいとの思いから、面会はいつでもどなたでもよいとの方針を打ち出している。また、頻繁に来ていただけるように電話したり、手紙を出している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者が何を必要としているかを考え、サービスを提供している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者に漬物の漬け方を教わったり、スタッフも入居者から学んでいる。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来られた時、入居者の日常の様子を話しながら家族の要望を聞いて、コミュニケーションに努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会はいつでもどなたでもよいという事を家族やまわり人に伝えている。また、正月、盆には帰省を促すなど、なじみの場所へ帰れる機会を作っている。	管理者・職員は一人ひとりの利用者の馴染みの人や場について把握しており、希望時には電話やファックス、手紙で連絡をとり友人に訪問して貰っている。利用者の思い出の場所の近くを通る際は立ち寄りなど、関係が途切れないよう支援している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士合わない人はスタッフが中に入りより良い関係で過ごしてもらえるように努めている。仲がよい方は話や歌を歌ったりされている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院など退所された方でも、時間のある時はお見舞いに行くようにしている。また、必要な場合は情報提供など柔軟な体制をとっている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常のコミュニケーションを深めていくことに努め、そこからの気づきを月1回のケア会議で検討し、プランの反映や見直しに努めている。	職員は日々の関わりの中で思いや希望、意向の把握などに努めている。利用者の言葉や表情で思いが理解できる事があるが、困難な場合は家族や関係者から情報を得るようにしている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントに重点を置き、できる限り入居者本人へのストレスの軽減に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	簡易記録やケース記録により、一人ひとりの日々の状況の把握に努め、ケア内容の見直しを図っている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一人ひとりの担当を決め、1ヶ月毎にプランの評価し、ケア会議でプランの見直しを図っている。又、家族との連絡も密に行い、意見の把握に努めている。	個別の計画を利用者や家族の意見を聴きながら作成している。全職員でケア会議をし、医師の意見を聞き、3ヶ月や6ヶ月に1回見直している。利用者の状態変化や状況に応じて随時見直し、本人・家族に報告し、了承の署名・押印を貰っている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や業務日誌等の記録で職員間の情報の共有に努め、ケアの実践方法やプランの見直しに反映している。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況により、家族の宿泊を取り入れを図ったりしてるが、多機能化までには至っていない。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事を通じて地域ボランティアの受け入れはあるが、本人と地域資源を繋げるまでには至っていない。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携体制や医師、薬剤師による療養管理を取り入れることにより、本人、家族、と医療機関との関係を密にし、受診に対する支援を行っている。	従来からのかかりつけ医や本人・家族が希望する医療機関の受診が可能である。通院方法や情報の伝達については良く話し合い、家族が原則付き添うと合意しているが、事情により職員が付き添うなど臨機応変に対応している。	
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制を取り入れたことにより、看護師に日々の体調の変化や気づきを報告相談している。又、アドバイスによりケア方法の変更や取入れを図っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	苑としての係りつけ医を持っていることで、医療機関との協力が図りやすくなり、入退院時の情報交換や相談に努めケアにつなげるようにしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りケアに取り組みははじめたばかりであり、今後、他職種を含めたチームケアに取り組んでいく必要がある。	重度化時の看取りの介護指針・同意確認書を明文化し、家族へ説明し押印を貰っている。更に本人・家族の意向を大切にしながら主治医、職員と話し合い、終末期について家族のアンケートを実施中である。全関係者で取り組み、その都度状況に応じて話し合いで合意を図り、全員で共有し支援していく方針である。	
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	地域の救急救命士により訓練を全職員で受け、緊急時に備えるように取り組んでいる。今後も定期的に訓練を続けていく必要がある。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導・講習を年1回受け、自主避難訓練を年1回行っている。	年2回消防署の協力を得て、避難訓練・誘導・消火器などの訓練を実施している。以前は地域への参加の呼びかけが行われていたが、最近ではおらず、地域住民の参加が得られていない。非常用食料・飲料・備品は整備している。	早急に災害マニュアルを見直し、現状に即した災害マニュアルの作成に取り組んでほしい。また、地域への防災訓練への参加の呼びかけを行ってほしい。
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけは優しく、丁寧に対応している。記録に関するプライベート保護についても家族に書面で説明し、同意を得ている。	さり気ないトイレ誘導や言葉かけなど、一人ひとりの人格を尊重し、目立たず自然に接し、他へ話を漏らさずプライバシー確保の支援をしている。	全職員はプライバシーの大切さを意識して支援しているが、テキストなどの研修記録が確認できなかった。外部・内部の研修を受け、いつでも研修内容を振り返ることができるようにしてほしい。
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者個々に合わせてわかりやすい説明をし、本人の意思を尊重しながらケアを行っている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日中リハビリ体操参加等の声かけを行っているが、基本的に自由に過ごされている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	現在、理美容はスタッフがやっている。同法人が運営する近隣のグループホームにボランティアで理容師が来ているので、利用している。それ以外は家族が連れていっている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在、調理配膳後片付けなどは、ほとんどスタッフがしてるが、できる人には可能な範囲で準備などをしてもらっている。	利用者と職員は同じ物を同じテーブルで食事介助をしながら食事の話をしたり、皿に寄せあげる等利用者が食事を楽しむことができるように配慮しながら食べている。嗜好を取りいれ、栄養バランス、カロリーを考えて献立を作り、旬の野菜を用いる等工夫している。	



項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	適切な水分量を確保するために水分表をつけ、1日の水分摂取量を確認している。また、食事についても個々にあわせて量や固さなどを調整している。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝昼夕の1日3回の口腔ケアを行っている。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的にトイレへの声かけ、誘導することで、トイレでの排泄ができるように努めている。また、オムツ使用者の方は2時間に1回のペースでトイレ誘導をしている。	職員は利用者の排泄のサインを見逃さないように努め、さり気なく支援している。おむつやパットなどの使用にはなるべく軽減を図る為ミーティングやケア会議時に話し合い、排泄の自立に向けた支援をしている。	
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動のためのリハビリ体操の参加を促したり、場合によっては、医療機関からの便秘薬を使用している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴は毎日午後2時から午後5時半までの間ならいつでも入浴できるようにしている。	毎日の入浴が可能であるが、午後からの対応となっている。入浴が楽しいものになるよう時には柚子湯にしたりと工夫している。入浴を拒否される場合には、時間を空けて誘導したり、人を代えたり、歌を口ずさむ等誘導にも工夫している。	
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は個々の時間に休まれている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は全てスタッフが1箇所にまとめて管理しており、夜勤者が配薬し、別のスタッフが服薬介助することで誤薬がないように努めている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の希望に応じ、買物に同行したり、散歩や園芸を行っている。歌の好きな方はカラオケを楽しんだりされている。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は日光浴や散歩をしている。	利用者の希望に応じて、散歩やドライブ等の外出支援を行っているが、あまり機会は多くない。	日常的に外出ができるように個別的に計画し、外出支援に取り組んでほしい。
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来る方は、本人の希望に応じて、小額ながら現金を管理している。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者から電話したいという希望があった場合は、時間などを考慮し、スタッフがかけ、利用者にとりついでいる。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁には利用者と一緒に作った飾りを展示している。また、大きな音を出したりしないように、落ち着いた空間を演出している。	ホールの大きなガラス戸越しに四季の移りが眺められ、すっきりした空間には手作りの絵や写真を飾っている。一角には畳室を設けカラオケや雑誌を置き寛げる家庭的な空間がある。テーブルには花を飾り居心地良い工夫をしている。テレビの音量・採光・換気にも配慮がある。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのソファや自分の席や畳のところで談話したり、思い思いに過ごせるようになっている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の家族の写真などを飾り、本人が落ち着いていられる空間にしている。	家族の写真や孫が作った作品、机・椅子・整理ダンス・暖簾・仏壇など思い思いに馴染みの物が持ち込まれ、本人が居心地良く過ごせる工夫をしている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すり、トイレなどにはわかりやすく案内を掲示し、1人でも動けるよう、自立した生活を送れるようにしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
58	-	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	-	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	-	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	-	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	-	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
63	-	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	-	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
			○	③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念にそって地域に満ちた利用者や家族が家庭的な環境の中で安心して生活できるように支援していくように心がけている		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月三春だよりの発行や行事への参加を地域や家庭によびかけている。近くの人より野菜などを頂くことが多い。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学校の職場体験を受け入れている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の運営推進会議を行い、苑でのイベントや行事の港北または参加者からの意見を聴き、ケアの向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加してもらい意見交換や情報交換している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないようにケアを行っている。スタッフ同士利用者の対応方法などお互いに話し合い注意したりしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	定例会では虐待防止についてお互い心がけているが、防止への研修会や勉強会には至っていない。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	昨年成年後見人制度について学習した。利用者が入居時に家族の説明が必要な場合は活用できるようにしている。		
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時口頭と書面で家族に説明を行い理解を図って同意を得ている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	スタッフとの日常会話で利用者の望みや不満をきくようにしてその都度対応している。家族には来苑時にまたはケアプラン変更時に希望を尋ねている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月定例会のときに意見を聴いている。または申し送りのときにきいてるが、記録はとっていない。		
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況やこの能力に応じてボーナスや処遇改善交付金などに反映している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している</p>	<p>採用にあたっては公平性を保ち、性別や年齢を理由に採用対象から除外しないようにしている。勤務時間や希望を尊重している。</p>		
14	10	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>法人代表および管理者は全職員に対する人権尊重を重んじることを日常的にはなしている。人権に関する外部研修は1部の職員が受講していて、パンフレットやテキストはある。</p>		
15	—	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>運営者は全職員が日常的に学ぶことを推進し職員が希望する研修を受ける機会を確保している。シフトなどを調整している。</p>		
16	—	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同業者ネットワークに加入し職員は定期的に参加される交流会に参加している。ケアサービス、記録の仕方を学びサービスの資質を向上させていく取り組みをしている。</p>		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>個々の利用者の性格を把握し、表情言葉動作を常に目配りし、時には1対1になれるような時間を設けやさしさをもって話しかけるようにいつも心がけている。</p>		
18	—	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族の方々とお話する機会を多く持ちたいと思いつながりながら面会はどなたでもいつでもよいという方針をうちだしている、行事ごとにいつも参加していただけるように手紙や電話連絡をしている。</p>		



項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の医療に関してはご家族の要望を兼ねて連絡をとっている。身体的な状況に関しても車イス歩行機などを利用している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	三春の理念を持って利用者へ接している。年長の方への不安を取り除きこだわりを活かしか梨もを楽しみにかえられるように感謝の気持ちでいつも心がけている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者に関することはすべて家族と話し合いお互いによりよい方法を選択できるようにしている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会はどなたでもいつでもしていただけるように家族や周りの方に薦め、積極的に受け入れている、またお盆や正月などは帰省できるように促している。		
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の相性に注意しながら入居者同士が助け合う場面があれば危険のない範囲でトラブルが起こらないように見守っている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要な場合は情報提供の柔軟な体制を常にとっている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常のコミュニケーションを深めていくことにつとめ、そこからの気づきを月1回のケア会議で検討し、プランの反映や見直しに努めている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントに重点を置き、できる限り入居者本人へのストレスの軽減に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	簡易記録やケース記録により、1人ひとりの日々の状況の把握に努め、ケア内容の見直しを図っている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1人ひとりの担当を決め1ヶ月毎にプランの評価し、ケア会議で、プランの見直しを図っている。又家族との連絡も密に行い意見の把握に努めている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、業務日誌等の記録で職員間の情報の共有につとめ、ケアの実践方法やプランの見直しに反映している。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況により、家族の宿泊を取り入れを図ったりしてるが、多機能化までには至っていない。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事を通じて地域ボランティアの受け入れはあるが、本人と地域資源をつなげるまでにはいたっていない。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携体制や医師、薬剤師による療養管理を取り入れることにより、本人、家族、と医療機関との関係を密にし、受診に対する支援を努めている。		
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制を取り入れたことにより、看護師に日々の体調の変化や気づきを報告相談している。又アドバイスによりケア方法の変更や取入れを図っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	苑としての係りつけ医を持っていることで、医療機関との協力がはかりやすくなり、入退院時の情報交換や相談に努めケアにつなげるようにに図っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りケアに取り組みはじめたばかりであり、今後他職種を含めたチームケアに取り組んでいく必要がある。		
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	地域の救急救命士により訓練を全職員で受け、緊急時に備えるように取り組んでいる。今後も定期的に訓練を続けていく必要がある。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し年2回消防署および地域の人々の協力を得て避難訓練や救急措置訓練の実施をしている。ひじょうよう食材や水を備えている。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は入居者1人ひとりのプライバシーと損なわないように言葉など配慮している。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者個々に合わせてわかりやすい説明をし、本人の意思を尊重したケアを行っている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日中リハビリ体操への参加を呼びかけたりするが、基本的には自由に過ごされている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容は現在スタッフがやっている、グループホームたかみに理容師が月1にきているので、それを利用している方もいる。それ以外のご家族が対応している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在調理や配膳はスタッフが殆どやっているが、後片付けはできる利用者に手伝ってもらっている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	適切な水分摂取量を確保するために、水分表を設け、1日の摂取量を確認している。食事についても個々に合わせた量や硬さにしている。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝昼夕の三回口腔ケアを行っている。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的にトイレ誘導を行って、トイレでの排泄を促している。オムツ使用の方も2時間に一度誘導を行っている。		
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動やりハビリ体操を促している。場合によっては医療機関からの便秘薬を使用する場合もある。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴は毎日午後2時半から5時まで30分間できるようにしている。		
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は個々にまかせて自分の時間で休まれるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	夜勤者が翌日の仕分けをし、それぞれの利用者に薬ケースに入れて、手の届かない場所で保管している。服薬するまで見守りや介助を行っている。薬についての説明書は個人ファイルに添付し確認できるようにしている。薬が変わったときは申し送りで伝達している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人ひとりに出来る事居室の掃除洗濯物干しやたみ、台ふきを体調をみながらおこなっていただいている。天気の良い日はそで昼食をとるように行っている。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	4月の花見や9月の敬老会は全員で温泉にでかけ楽しく過ごしている。家族にも参加してもらえるようにしている。天気の良い日は外で外気浴を行ったりしている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一定の現金を預かり、買物や出かけた際は支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は要望があればかけたり取り次いだりしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室前に入居者の名前と写真を目印として貼っている。トイレ浴室にも表示をおこない場所間違えの防止をしている、常に適度な明るさや過ごしやすい室内温度の保持を行っている。季節の花をテーブルに飾るなどして季節感を味わっていただいている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのソファや自席にてテレビをみたり談笑をしたり思い思いに過ごしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真を飾ったりお位牌をおいて朝夕拝んだ血、本人と家族をつなぐようなものを置いている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内で、つまづきすべりなどがないように靴下などであるけるように手すりの設置や段差の解消をしている。1人でも動けるように自立した生活がおくれるようにしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
58	-	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	-	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	-	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	-	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	-	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
			○	③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
63	-	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	-	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない



項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
			○	③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない